事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の	有無 無 ▼		電話	(746)6600
担当部課名	生涯学習部 ▼	大野中公民館	•		
事務事業名	公民館活動費 大野中公	民館 公民館まつり委託		事業コード	16130

1 総合計画における位置づけ

政策名	第 6	章	彩りのある市民文化を創造します	事業	開始年度
基本施策名	第 1	節	多彩な市民文化の振興	~ 63	任臣
施策名	第 3	施策	多彩な文化交流の促進	00	→ 牛皮

2 実施根拠及び関連法令等

教育基本法第7条、社会教育法第20条、相模原市立公民館条例

3 事業概要

(1)事業の目的 地域の人々による日頃の社会教育活動、公民館活動の成果の発表及び公民館利用者相 互の交流の場を提供し、地域の人々への公民館活動についての普及と理解を促進し、 地域文化の向上を図ることを目的とする。

(2)対象(誰、何) 年代:主に50~70代、地域:主に大野中公民館館 区住民

対象 1,500人

数

(3)平成13年度事業の内容

開会式・感謝状贈呈式、文化展、おまつりフェア(利 なし 用サークルの発表等)、ふれあい喫茶、模擬店、バ ザー、子ども対象のうどん作りコーナーの開催。

(4)総合計画・実施計画における概要

(5)個別計画の概要

計画名

年度~ 年度

実行委員会形式による事業計画を決定し、事業を実施 している。

4 評価指標

指標名	集客達成率	
指標式		
指標設定 の意図	多くの参加者を集める。	

5 目標と宝績 (全額単位・千円)

」 口信と大浪							し金銀半位・十つ)	
	/	平成11年度	平成12年度	平	成13年度(訂	平価文	才象年度)	平成14年度
		実績	実績		実績		目標	目標
	指標	1,500	1,500	а	1,500	Ь	1,800	1,800
	指標			C		a		
	指標			е		f		
_	決算 (予算)額	130	130		130		130	130
事	人員・時間数				3 • 80		3 • 80	
業					334,400		334,400	
赤	その他経費							
	合 計	130	130		334,530		334,530	130
	特定財源							

6 個別評価

(一) 達成 医	せい目標をとれたけ道	きり入した力	<u>, , , , , , , , , , , , , , , , , , , </u>				
評価	A:達成している		100%)				
B ▼	B:一部達成していな	•	> 80%) = ,	、 の平均値 =	83.3%		
_	C:達成していない	(80%>)		ı		
<u>a</u> b	$\frac{1,500.0}{1,900.0}$ × 100=	83.3%		—× 100=	<u>e</u>	──× 100=	
2	1,800.0	曲旦ポロ	•	小か/母舎であった	「 また サーカル祭	以外のすぎのこ幼稚園園	
理由:	児による劇、鵜野森中学	学校生徒は	こよる演奏会が参加され盛			ののののののののでは、	
	t···時代変化に適応し						
	A:適応している	理由:				はく、幼稚園園児、中学	
_A ▼	B:一部適応していない C:適応していない		生か王催側におり、地 かしている。	域住民の父流が凶	れた。開催後に	反省会を開き次回に生	
(3)経済性	t·効率性・・・費用対効	単は妥ら					
評価	<u> A: 妥当である</u>			ているが、費用対	効果については	は、何を基準に出すのわ	
В	B:一部妥当でない					「ると、経済性は高いとい	
== NIZ =	C:妥当でない	- 45	える。				
			分担のあり方から見て、		ことが適当か		
	A:代替の可能性ない B:代替の可能性低い	埋田:	現時点では、他の手段	は見出せない。			
	C:代替の可能性高い						
(5)市民流	C: C O RE R O R C O C C C C C C C C	満足は得	られているか				
評価	A:満足できる			段公民館を利用し	ている人が大き	多数であることから、参加	
	B:一部満足できない		者、来客は満足してい				
	C:満足できない						
	上・・・当該事業は上位(* > - 1	11 + 6 14 1 - 1 ° °	711 1 5 1 - 7	
	A:有効である	理由:	生涯学習の発表を行な	なうことで、更なる参	加者の増加が	見込められる。	
A ▼	B:一部有効である C:有効でない						
				成果向上の余地			
評価バ	ノノステヤード	成度					
	Α	Ť				て、幼稚園園児、中学生	
	В.				が既に参加され	っているが、今後小学校	
	有効性		必要性	□ない	児童の参加を何		
	C	† //	 				
				コフトル羊人+4			
		1	/	コスト改善余地	説明:		
	C	† >		1		全食代)について、全額を	
	市民満足度		X 経済性·効率性	₽ Ø 6		(、補助としての考え方、	
	Ь			口 な い		賄いを行なうこと。	
	Α					•	
事業の代替性							
7 総合評価							
	A ▼		比較はしていないので	わからない。			
評価		他自治					
77 1 W		体の類					
		似事業との比					
今後の進め方							
D.	継続						
N .	MCE: MOG					事業が必要としないこと	
	見直し	1 11	はありえないと考える。 思う。	ただし、時代の変化	化に対応するに	は若干の見直しはあると	
	廃止	説明					

8二次評価における変更点

完 了